

危険予測・危険回避

交通事故、火災、地震、大雨、雷、コロナウイルス、……。私たちの身の回りにはたくさんの危険があります。未来ある子どもたちのため、安全な環境を築くことや災害への備えをすることは大人の努めだと思います。と同時に、子どもたちには、自分で自分の身を守る力を身に付けさせていかなければならないとも思います。学校では、危険を予測すること、予測して回避することをそれぞれの段階に応じて学べるよう配慮しなければなりません。

危険予測のためには、まず自分が置かれている状況を把握することが必要です。つまり、周りを見て・よく聴いて（五感をはたらかせて）気付く力が必要です。今回は、これに関連する2つの話です。

①1月18日に地震発生を想定した避難訓練を行いました。今年の訓練は、やり方を昨年までと変えました。これまでは、教室にみんながいて、授業をしている最中に地震が発生し、担任の引率で避難する訓練でしたが、今回は休み時間に地震が発生し、必ずしも近くに職員がいらないという状況を意図的に仕組んで行いました。地震発生時にトイレに一人でいた子どももいました。緊急放送をよく聞いて、考え、頭を保護するなどの自分の身を守る行動をし、所定の避難場所に避難をしました。特に動揺する子どもはおらず、避難指示があってから全員が避難完了するまで3分7秒でした。これは前回よりも40秒短縮です。避難

の要領や自分で考える力が少しずつついてきていると思います。②西小学校周辺の道路は道幅が狭いところが多く、自動車の離合に難儀することがあります。また、朝、登校指導をしていて、交通量の多さとかなりスピードを出す方がおられることにヒヤヒヤします。（特に松里線）子どもたちには、「道幅が狭いところでは、1列で歩きましょう」と指導しています。松里線には片側のみ歩道部分にカラー舗装がしてありますが、カラー舗装の範囲内であっても油断はできません。状況をよく見て、より安全と考えられる行動をすることが、危険予測、危険回避です。仲よしの友だちと並んで会話しながら歩くのは楽しいものですが、状況によっては危険な行為となります。

また、「カラー舗装の範囲内だから二人で並んで歩いてもいいじゃないか、はみ出しているわけじゃないし。」という子どももいると思います。しかし、二人で並んで歩いているそのときに、反対方向から人が歩いてきたら、すれ違うときにこちらか相手のどちらかが車道に出なければならなくなります。車道にはみ出たそのときに自動車がやってきたら……。一列歩行は自分だけの危険回避のためではなくて、反対から来る人への思いやりでもあります。子どもたちには、このことにも気づいてほしいと思います。

子どもたちには、足下に注意することも大事だけれども、下ばかり見て歩かないで、周りの様子も見ながら、つまり自分が

どんな状況にいるのかを常に意識しながら生活するよう、常々言い聞かせていきたいと思います。そして、危険だと感じたら、自分で考え、その危険から回避できる力を育んでいきたいと思います。

ご寄贈いただきました

サッカーJ2のロアッソ熊本様からサッカーボールをいただきました。リーグ戦で1得点する毎にサッカーボール5個を県内の小学校に寄贈される「1ゴール5アシスト」事業の一環だそうです。スポーツを通じた地域貢献活動として、熊本トヨタ様がボールの購入費用を負担され、ロアッソ様が配布されています。

昼休みは毎日子どもたちがサッカーをしていますので、たいへんありがたいです。

2月の主な行事予定

1日(火) 委員会活動
2日(水) 1・3・5年知能検査
7日(月)～性教育週間
8日(火) 学力検査(国・理)
9日(水) 学力検査(算・社)
6年中学校説明会(本校)
14日(月)・15日(火)・16日(水)
諸費納入日
17日(木) 弁当持参日

※19日(土)に予定していた西小フェスタ(学習発表会)は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止します。そのため17日(木)は振替休業日ではなく、通常授業となります。給食がないので弁当を持たせてくださいますようお願いいたします。